

### ■ショーはショー、現状を見つめ直す

2023 年上海モーターショーは過去に例を見ない現象を巻き起こした。完全にコロナ終焉後に行われた初めての世界最大とも言えるショーだけに、世界各国が報道、ここに Youtuber 等も参戦、日本だけでも今までの中国のショーでは考えられないほどの配信が行われた。その中で出てきたのが、中国勢の「元気さ」による、日本車のオワコン説。中国現地では今回のショーに限らずよく言われ始めていることだが、これを喧伝する配信が極めて多かったのが特徴だ。日本車オワコン説、本当にそうなのか？

ショーはショー、あくまでも見せ方によって、大きくも、小さくも見える。これだけで判断するのは危険だ。そこで中国におけるメーカーごとの販売台数を活用、2019 年 1 月以来の毎月の各社のシェアを算出、それを基にエクセルの予測シート機能を使用して、2025 年末までのシェア推移を予測した。これが現状の中国における温度感だと思われる。

### ■日系は本当に全部オワコンか？

まずは日系。トヨタ、ホンダ、日産の各合弁 5 社を見てみると、はっきりと勝ち負けが分かれた。勝ちトヨタで、广汽トヨタは 19 年初頭 3%にも満たないシェアだったが、25 年末には倍の 6%に達する可能性が示唆された。一汽トヨタはそこまでのドラスティックな動きは見られなかったが、やはり 19 年初頭 3%にも満たないシェアは 25 年末 4%前後に達している。

一方の广汽ホンダ、東風ホンダ、東風日産は程度の差こそあれ、すべてシェアは減少。東風日産においては、近似線で 19 年初頭 6%前後のシェアがありながら、25 年末には 3%を大きく割り込んでいる。さらに特筆すべきはこの 3 社、予測の信頼下限で 25 年末までに 0%を割り込んでいることだ。あくまでも予測、可能性の話だが、信頼下限で 0%以下となる場合、「オワコン」認定はされてもおかしくはない。

### ■伸びているのはやはり

伸びているのはどこか、と言われれば、やはり BYD やテスラだ。BYD(DENZA 含まず)は 19 年初頭 0%に近いシェアだったが、25 年末には 16%に達する見込み。現状の勢いから、BYD は予測の信頼上限を見た方がよさそうなので、その値を取れば、25%近くに達している。テスラも同じく 19 年初頭 0%から 25 年末には 4%に達している。伸びは BYD と比べ小さいものの、堅調な勢いを示している。

他に中国勢としては紅旗、長安などが伸びているが、長城、吉利(ZEEKR 含まず)は下落傾向。長安は今までの販売をベースにハイエンド化を進めており、それが功を奏すかどうか、注目される。一方で、あの手この手を繰り返すことで知られる長城だが、販売及びその予測としては伸びていない。上海ショーでの長城のパフォーマンスは高く評価される傾向にあるが、まさにショーにおける幻想の可能性もある。

ショーでの問題、たとえば、BMW アイスクリュー事件。個人的にはそれほど注目されることなのか、と疑問だ(独系メーカーによる中国での不祥事は比較的多く、今回もその一つと考えられる)が、販売予測を見てみると、やはり BMW は堅調だ。ものすごく大きな伸びは示していないが、予測信頼下限も 0%を大きく上回り、オワコンの気配はない。